

(様式 1 - 5)

埴町 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和 5 年 1 月 13 日時点

※本様式は 1 - 3, 1 - 4 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	「はなわのダリア」活性化事業	事業番号	A - 1
事業実施主体	埴町	総交付対象事業費			3,000 千円
既配分額		0 千円	当該年度交付対象事業費		3,000 千円
経費区分ごとの費用					
一 地域の魅力向上・発信事業					
①情報発信事業					
小計 3,000 千円					
i) 風評動向調査 千円					
ii) 体験等企画実施 3,000 千円					
iii) 情報発信コンテンツ作成					
iv) ポータルサイト構築					
②外部人材活用					
小計 千円					
i) 企画立案のための外部人材の活用					
ii) 地域の語り部の育成					
二 関連施設の改修					
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修					
風評の払拭に関する目標					
【アウトプット】					
イベント開催回数 1 回 (R05 年度)					
【アウトカム】					
埴町観光入込客数 12 万人増加 (R01 年→R07 年)					
イベント来場者 合計 30,000 人以上 (R05 年度)					
風評払拭意識改善 30%向上 (R05 年度)					
事業概要					
事業実施主体	埴町				
主な企画内容	「はなわのダリア」展示観覧販売会の開催				
主な事業の実施場所	池袋サンシャインシティ				
事業の実施期間	R 5 ~ R 7				
企画内容					
【実施体制】					
①実地主体：埴町					
②連携団体及び役割分担					
経済産業省：ALPS 放水処理水などの啓発 PR					
委託事業者：イベントの実施（会場設営、イベント運営）					
首都圏大学：イベントの情報発信に係る協力・連携					
【現状・課題】					

<現状>

- ・ 埴町は、以前から特産品であるダリアのブランド化（「はなわのダリア」）を図ることで、町の活性化を図ってきたところである。  
しかしながら、震災を契機にダリアの出荷額、埴町への観光入込客数ともに大きく減少、その後、ダリアの出荷については持ち直して来ているものの、埴町への観光入込客数については、依然として回復していない。  
（参考）埴町観光入込客数 H22年 527,855人、H23年 413,803人、R01年 345,494人
- ・ このような中、ALPS 処理水の海洋放出を R05 年の春から夏にかけて実施する方針が確認されたことから、今後、特に福島県の浜通り地域及びその近隣地域においては、ALPS 処理水による風評が再燃することが懸念されており、これまでの以上の風評を払拭するための取組が必要な状況にある。

<課題>

- ・ 上記の現状を打開するためには、実際に埴町をはじめとする福島県の各地に来てもらい、知ってもらい、現地の物を食べてもらうことで、埴町や福島県の現状を正しく理解していただくことが重要である。
- ・ 特に、R05 年の春から夏にかけて実施される ALPS 処理水の海洋放出に向けて、ALPS 処理水に関する正しい理解を図るとともに、より効果的に埴町の情報発信を行っていく必要がある。
- ・ このため、埴町としては、近年好調である「はなわのダリア」のブランド力をより一層強化し、「はなわのダリア」を核として、都市部在住の方とも協働した情報発信を展開することで、埴町や福島県のことを多くの方に知っていただき、主たるターゲット層である若年女性層を中心に埴町や福島県への観光誘客の増加を図る。

【現状の課題に対するこれまでの取組】

- ・ 都市部での各種イベント出展
- ・ 町内ダリア園の PR、集客

【事業実施により得られる効果】

- ・ ALPS 処理水をはじめとした福島県の現状を正しく理解していただくことで、原子力災害による風評の払拭を図ることができる。
- ・ 「はなわのダリア」を認知し、価値を感じてもらうことを契機として、埴町への観光誘客の増加につなげていくことが期待できる。

【今年度事業における具体的な取組内容】

1 「はなわのダリア」による埴町の魅力発信事業

実施期間：R5.8月～R7.12月

実施体制：埴町、委託事業者

概算費用 300 万円

○サンシャインシティ池袋で開催される日本ダリア会主催の「ダリアの華展」を貸し切り、「はなわのダリア」をメインとした展示観覧販売会として「ダリアの華展」を開催する。

併せて、経済産業省と連携して ALPS 放水処理水などの啓発 PR コーナーを設置し、ALPS 処理水に関する正しい情報を発信していく。

- ・展示会の運営においては、埼玉女子短期大学との連携の下、埴町と当該大学の学生が協力して「はなわのダリア」を題材とした、風評払拭と観光 PR 目的の動画を作成し、会場の大型オーロラビジョンで放映するとともに、「ダリアの華展」当日には学生にダリアの花束等のアレンジメントを実演していただき、「はなわのダリア」の PR に協力していただく。
- ・また、本年春から夏に実施が見込まれる APLS 処理水の海洋放出により、風評が再燃することが懸念されることから、経済産業省と連携して「ダリアの華展」の会場内に APLS 処理水に関する啓発 PR コーナーを設けるとともに、経済産業省から ALPS 処理水に関する専門的知識を有する説明要員を派遣していただき、大型オーロラビジョンやパネル、専門家による説明、各種 PR 資料等を用いて参加者に正しい知識を啓蒙する。
- ・併せて、このイベントに参加する前後でどれだけ正しい理解を深めたか等についてアンケート調査を実施し、風評払拭の改善度合いを数値化するとともに、次年度以降の事業の参考とする。

【今年度事業における目標】※複数年度にわたって事業を実施する場合

【アウトプット】

- ・イベント開催回数 1 回

【アウトカム】

- ・来場者数 合計 30,000 人以上
- ・風評払拭意識改善 30%以上

【今年度事業の実施により得られる効果】※複数年度にわたって事業を実施する場合

- ・ALPS 処理水をはじめとした福島県の現状を正しく理解していただくことで、原子力災害による風評の払拭を図ることができる。
- ・「はなわのダリア」を認知し、価値を感じてもらうことを契機として、埴町への観光誘客の「増加につなげていくことが期待できる。

【次年度以降の取組】※複数年度にわたって事業を実施する場合

- ・「はなわのダリア」のブランド力の強化と、「はなわのダリア」を契機とした埴町の PR の強化による観光誘客の拡大。
- ・ALPS 処理水をはじめとした福島県の現状の啓発活動の継続。

【新型コロナ感染拡大防止対策】

事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、国・実施主体する地方公共団体・(イベント開催など実施主体と開催地が属する地方公共団体が異なる場合には、開催地が属する地方公共団体)が発出する通知・ガイドラインに則った形で事業を実施いたします。

<具体的な対策>

- ・イベントスペースでの人流管理
- ・展示や導線誘導によるソーシャルディスタンスの徹底